

米国金融政策（2023年7月FOMC）

0.25%ポイントの追加利上げを2会合ぶりに決定

2023年7月27日

利上げバイアスを維持しつつも、政策決定は「データ次第」を強調

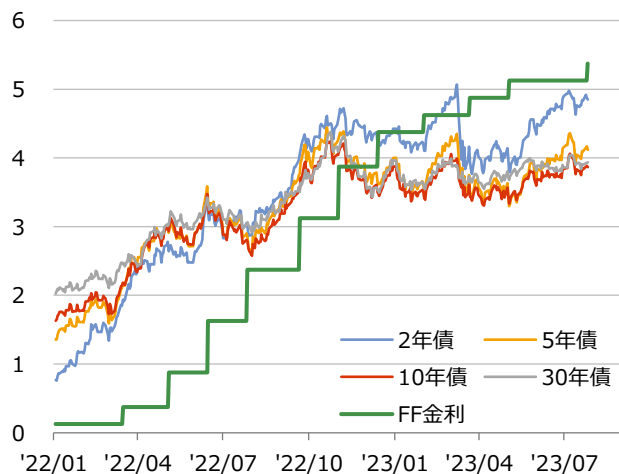
FRB（米国連邦準備制度理事会）は7月25-26日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを5.25～5.50%へと引き上げることが全会一致で決定しました。また、国債やMBS（住宅ローン担保証券）の保有額縮小を計画通り実施していくことも再確認しました。

声明文は利上げバイアスを維持しており、今回の利上げで打ち止めとなることを示唆していません。FOMC後の記者会見で、パウエルFRB議長も6月消費者物価指数の下振れを歓迎しつつも「単月の結果に過ぎない」として、追加利上げの可能性を排除していません。他方、議長は「今後のデータ全体を踏まえて会合毎に政策を決定していく」とも指摘しており、これまで同様に「データ次第」であることを強調しています。前回6月のFOMC参加者見通し（中央値）では今回を含めて年内2回の追加利上げが想定されていたことを勘案すると、タカ派姿勢が幾分後退したとも言えます。

債券市場は政策発表後に上下したものの、記者会見を含めて概ね予想通りの結果だったため、反応は限定的でした。FF金利先物では今回の利上げをもって打ち止めとの評価です。追加利上げの有無は、雇用・物価指標を中心とするデータ次第であることに変わりありません。景気後退回避の可能性が高まっていますが、雇用・インフレを押し上げるほど景気が上振れれば、追加利上げの必要性が高まることになります。

FF金利と米国債利回り

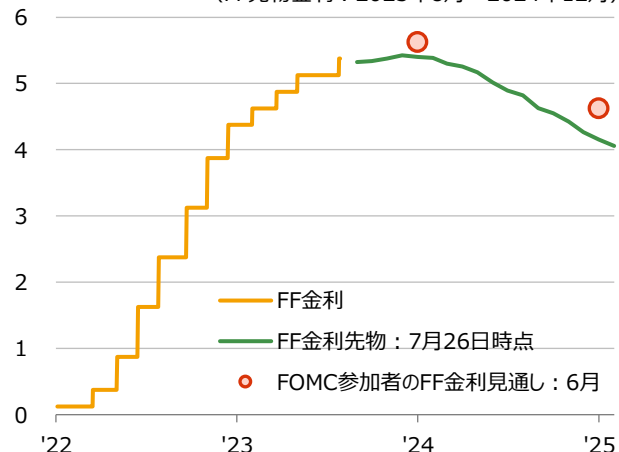
(%) (2022年1月初～2023年7月26日)



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値

(出所) ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し

(%) (FF金利：2022年1月初～2023年7月26日)
(FOMC参加者のFF金利見通し・中央値：2023・24年末)
(FF先物金利：2023年8月～2024年12月)

(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management